

石巻市総合計画の評価・検証

基本構想

- 基本理念：協働/創造/活力/安心/誇り/融和 ●将来像：わたしたちが創り出す 笑顔と自然あふれる 元気なまち
- 基本目標：目標1：ともに創る協働のまち/目標2：個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち/
目標3：地域資源を活かして元気産業を創造するまち/目標4：安心して健やかに暮らせるまち/
目標5：心ゆたかな誇れるまち/目標6：地域の個性が輝き融和するまち

評価方法

6つの基本目標、29の基本施策体系に基づき検証

- ① 総合計画基本計画に位置付けたまちづくり指標の達成度
- ② 総合計画実施計画に位置付けた指標の達成度を勘案し、総合計画の取組を検証した。

施策の評価・検証（青字：成果、赤字：課題）

第1章 ともに創る協働のまち

第1節 住民の自治力を強化する

・コミュニティ活動やNPO活動への支援を推進しているものの、震災等の影響もあり**満足度があまり高まっていない**。地域自治システムの構築等により**住民自治力の強化**が求められる。

第2節 市民のまちづくりに対する関心を高める

・行政情報のオープン化、情報公開に努めてきたが、手続きの簡素化や震災関連資料の整備・活用について検討が必要である。

・市民の行財政に関する関心を高め、委員公募などへの積極的な参画を促す必要がある。

・男女共同参画事業の推進により市民の理解は深まっているが、委員会等への女性登用割合が低調であるなど、さらなる取組が必要である。

第3節 市民満足度の高い行政サービスを提供する

・庁舎の移転集約や窓口業務民間委託等により行政サービスの充実を推進してきたが、市民ニーズを勘案した継続的な改善が必要である。

・行政評価は、震災により中断しており、行政運営に対する市民評価の反映について検討が必要である。

第4節 安定した行財政運営を構築する

・行財政改革については、指定管理者制度の導入などを進めてきたが、職員定数適正化等さらなる取組が必要である。

第2章 個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち

第1節 「生きる力」を持つ子どもたちを育成する

・教育へのニーズが多様化、グローバル化する中、不登校児童などへの適応指導や特別支援教育支援員の小中学校への適正配置など、きめ細やかな対応が求められる。

・学校施設の安全性の確保やパソコンの整備など、良好な教育環境の整備に努めてきた。ICTの活用や図書整備の充実などにより、学力の向上を図る必要がある。

・いじめやSNSでの犯罪等から子どもたちを守る対策が必要である。

第2節 地域全体で子どもたちを育成する

・地域や関係機関、学校などの密接な連携のもと、子どもたちの健全な育成に取り組んでいる。引き続き、連携を強化して子どもたちの安全確保に努める必要がある。

・地域社会の中で子どもたちを心豊かで健やかに育む環境づくりを推進しているが、人口減少が進む中、人材の確保が課題である。

第3節 新たな時代を創造する人材を育成する

・国際交流事業を推進したが、グローバル化が進む中、相互理解や友好を深めるため、更に国内外との交流を進める必要がある。

・小学校での外国語教育活動の充実を推進したが、ALTの充足など人材の充実を図る必要がある。

・地域の自然や文化、歴史など、郷土を愛する心を育む取組を進めている。

第3章 地域資源を活かして元気産業を創造するまち

第1節 石巻独自の技術開発や新産業を創出する

・事業所再建を支援してきた。

・震災により停滞していた、新たな産業創出を官民協働で進める必要がある。

第2節 いきいきと働ける就業環境を創出する

・奨学金の返還支援により医療福祉介護等の専門職の確保に努めた。

・人材の確保は、福祉分野に限らず農林水産業等の広い分野で、引き続き対策が必要である。

・雇用のミスマッチの改善が必要。

第3節 持続的な水産業の発展を図る

・水産基盤の回復が進み、沿岸漁業の復興に繋がっている。

・水揚の減少に伴う原魚の確保が必要である。

・商業捕鯨の再開がなされた。

第4節 魅力的な農林業を確立する

・農業基盤整備などが進められた。

・適正な森林管理による林業経営の安定化を図る必要がある。

第5節 消費者に信頼される“石巻ブランド”を形成する

・石巻ブランドの付加価値の高まり。

・水産加工業者の衛生管理基準の向上のため継続して取組が必要である。

第6節 人々が集い、住み、楽しく過ごせる中心市街地を再生する

・整備したかわまちエリア等の賑わいが中心市街地全体に波及していない

第7節 年間を通して観光客が訪れることによりにぎわいを創出する

・DMO設立、各種イベントにより賑わいの再生が図られた。

・訪日外国人観光客への対応充実が必要である。

第4章 安心して健やかに暮らせるまち

第1節 お互いに支えあい生活できる仕組みを構築する

・地域コミュニティ等の希薄化が進み、支え合う意識の醸成が必要。

・買い物困難地域における利便性が向上した。

第2節 生涯を通じて元気で健康な暮らしが実現できるようにする

・医療施設を整備した。

・子ども医療費助成の年齢拡大、所得制限廃止等の拡充を行った。

・研修会の実施により健康意識、心身機能の向上を推進した。

・特定健康診査（国保）受診率は向上しているが、依然として低い。

第3節 安心して子どもを産み育てられる支援体制を確立する

・保育所等の整備より、子育て環境の整備を推進した。

・合計特殊出生率は依然として低い

第4節 安心と誇りを持って住み続けられる高齢者福祉を充実する

・介護予防、認知症支援に一定の成果が見られたが、高齢化が更に進むため引き続き課題である。

第5節 自立し、いきいき暮らせる障がい者福祉の充実を図る

・障がい者サービス利用が増加した

・今後は障がい者に対する理解を深める取組が重要である。

第6節 日常の身近な安全性を高める

・消防施設の整備、防災情報の発信の充実が図られた。

・ハザードマップの整備や難聴エリアの解消が必要である。

第7節 災害に対する備えを充実する

・自主防災組織の支援が図られた。

・急傾斜崩壊危険区域の工事に着手した。未実施箇所について事業を進める必要がある。

第5章 心ゆたかな誇れるまち

第1節 豊かな自然を次世代へ継承する

・公共下水道整備など公衆衛生の向上が図られたが、未整備地区の整備を進める必要がある。

第2節 身近な自然や生活環境を守る

・復興事業による公園整備や下水路整備により生活環境の向上が進んだ。

・ごみ減量化・資源化を一層推進する必要がある。

・太陽光発電システム等の新エネルギー利用に補助を行い、普及促進を図った。

・空き家の解消に取り組む必要がある。

第3節 地域に対する愛着や誇りをはぐくむ

・無形文化財等の伝統を継承する人材が不足している。

第4節 市民が個性を活かして輝ける機会をつくる

・公民館等の整備により、交流の場、学習の場を提供することができた。

・蔵書の充実により、図書館利用の推進を図ったが、1人あたりの資料費は依然として低い。

・体育施設の整備により、市民スポーツ活動の推進を図ることができた。

第6章 地域の個性が輝き融和するまち

第1節 地域の風土に根ざした魅力や資源を守り育てる

・地域コミュニティの活性化につながる事業の推進が必要である。

・離島や半島のPRにより来訪者を増やし、振興を図る必要がある。

・地域おこし協力隊の確保に取り組んでいるが、地元事業者とのマッチングに課題がある。

第2節 地域間連携により、大きな魅力を創出する

・三陸道は八戸までの全線事業化、仙台までの4車線化も実現した。

・復興事業が優先であったため、これまで未実施だった道路事業が残されている。

・広域的な産業、医療、防災などを支える高規格道路から中心部へのアクセス道路が一部未整備となっている。

・石巻新庄道路の早期事業化に向けた取組が必要である。

第3節 快適な生活環境を実感できる地域にする

・復興事業により、都市を取り巻く状況が変化し、都市計画マスタープランの見直しが求められている。

・市営住宅の住環境整備を行った。

第4節 だれもが利用しやすい、生活を支える公共交通を確保する

・補助金の活用により、バス路線の維持が図られた。

・離島航路への新造船就航により利便性が向上した。

・公共交通機関の維持のため、利用促進を図る必要がある。

取組展開

- NPO等と行政との連携
- コミュニティ活動の推進、男女共同参画に対応した取組
- 行政運営に対する市民評価の反映
- 持続可能な行財政運営の全庁的な推進

- 教育ニーズの多様化に応じた、教育プログラムの充実、学力の向上
- いじめや犯罪から子どもたちを守るため、地域・家庭等との連携強化
- 未来を切り拓く人材の育成

- 新たな産業の創出
- 担い手の育成・人材の確保
- 農林水産業の経営基盤の充実
- 中心市街地の活性化、インバウンド対応

- 包括的な支援体制の整備
- 安心した生活を支える医療、介護、福祉の充実
- 少子化対策
- 自助・共助・公助による防災推進

- 豊かな自然環境の継承
- ごみの減量化、空き家の解消など良好な生活環境の保全
- 生涯学習、スポーツ活動の推進

- 地域振興の担い手の確保、団体の育成
- 広域道路ネットワークの充実
- 地域の足を支える公共交通の維持継続

総括

震災からの復興事業が優先され、産業の振興、道路整備等において、これまでの取組を進めることが困難であった。また、教育や福祉の分野において、いじめやSNSの犯罪、包括的な支援体制の整備等、新たな課題がみられている。さらに、人口減少や高齢化により、地域コミュニティの希薄化や人材不足が進んでおり、その対策や少子化対策について、十分に対応できておらず課題が残っている。